

イメージ写真	基本目標	3	豊かな心を育む文化を高めるまちづくり
	政策	1	幼児教育・学校教育の充実
	施策	①	幼児教育の充実

5年後のめざす姿

みんなで楽しく遊べるまち

成果目標

活動指標（アウトプット） ※何をどれくらいやったかを把握するためのものさし	単位	現 状 （令和元年度）	中間目標 （5年後：R7年度）	最終目標 （10年後：R12年度）
幼小連携会議開催回数【単年】	回	0	2	4
幼児教育研修会開催回数【単年】	回	0	2	2
成果指標（アウトカム） ※どのような効果があったかを把握するためのものさし	単位	現 状 （令和元年度）	中間目標 （5年後：R7年度）	最終目標 （10年後：R12年度）
幼児教育5領域10の姿の達成度	%	40	60	80

幼児教育「5領域10の姿」の説明

<5領域> 資質や能力といった育みたい子どもの姿の目標を表したもの

○健康 ○人間関係 ○環境 ○言葉 ○表現

<10の姿> 卒園までに育まれる子どもの姿を10個の具体的な視点から捉え、より明確化したもの

○健康な心と体 ○自立心 ○共同性 ○道徳性・規範意識の芽生え
○社会生活との関わり ○思考力の芽生え ○自然との関わり・生命尊重
○数量・図形・文字等への関心・感覚 ○言葉による伝え合い ○豊かな感性と表現

目標達成のための具体的な方法

■後期5年間で重点的に取り組むもの（重点事業）

1. 保育士の確保と幼児教育に係る人材を育成する。（主体：町、教委）

大学と連携したり、町外の有資格者の移住を促したりして、保育士の人材を確保するとともに、幼児教育についての研修機会を確保し、人材育成を図る。

■継続して取り組むもの（継続的事業）

1. 各保育施設において、幼児教育の機会を提供する。（主体：町、教委）

2. 安心安全な保育・幼児教育施設の維持管理に努める。（主体：町）

3. 幼児教育に対する保護者、地域の理解・協力する姿勢の醸成を図る。（主体：町、教委）

イメージ写真	基本目標	3	豊かな心を育む文化を高めるまちづくり
	政策	1	幼児教育・学校教育の充実
	施策	②	小中学校教育の充実

5年後の めざす姿	自分で行動できる子どもを育てるまち
------------------	--------------------------

成果目標

活動指標（アウトプット） ※何をどれくらいやったかを把握するためのものさし	単位	現 状 （令和元年度）	中間目標 （5年後：R7年度）	最終目標 （10年後：R12年度）
小・中学校教職員の週の平均勤務時間 （土日を含む）	時間	44	43	42
成果指標（アウトカム） ※どのような効果があったかを把握するためのものさし	単位	現 状 （令和元年度）	中間目標 （5年後：R7年度）	最終目標 （10年後：R12年度）
全国学力学習状況調査における全国 平均比（小学校 算数・国語の合計）	%	96	98	100
地元から広尾高校への進学率	%	65	70	75

目標達成のための具体的な方法

■後期5年間で重点的に取り組むもの（重点事業）

1. コミュニティ・スクールの一層の推進と定着を図る。（主体：教委）

平成30年度に小中学校に導入したコミュニティ・スクールが地域に根差した活動となるよう、町民の力を結集し、より一層推進する。

2. 地元の産業や文化に触れる体験学習の充実を図る。（主体：教委）

漁業や農林業、商工業、歴史・文化など、地元住民と直接関わりあいながら、体験を通じて地元への理解を深める学習を推進する。

3. 小・中学生の保護者負担の軽減を図る。（主体：教委）

給食費の完全無償化、修学旅行費の助成により、保護者の経済的負担軽減を図る。

<関連する重点プロジェクト>

⑤ 自分大好きプロジェクト

■継続して取り組むもの（継続的事業）

1. 教諭の授業力の改善・向上のための取組を推進する。（主体：教委）

2. 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を開催し、地域と一体になった特色ある学校づくりを推進する。（主体：学校運営協議会、教委）

3. 中高一貫教育を推進する。（主体：中高一貫教育連絡協議会）

4. 学校施設やスクールバス、教材、設備機器などの維持管理や更新を適切に行う。（主体：教委）

5. 学校給食センター施設の維持管理や調理機器等の更新を適切に行い、給食の安全性を確保する。(主体:教委)

イメージ写真	基本目標	3	豊かな心を育む文化を高めるまちづくり
	政策	1	幼児教育・学校教育の充実
	施策	③	高校教育への支援と交流

5年後のめざす姿

地域を支える子どもを創るまち

成果目標

活動指標（アウトプット） ※何をどれくらいやったかを把握するためのものさし	単位	現 状 （令和元年度）	中間目標 （5年後：R7年度）	最終目標 （10年後：R12年度）
広尾高校町民応援体制の整備	—	—	整備済	整備済
成果指標（アウトカム） ※どのような効果があったかを把握するためのものさし	単位	現 状 （令和元年度）	中間目標 （5年後：R7年度）	最終目標 （10年後：R12年度）
地元から広尾高校への進学率（再掲）	%	65	70	75

目標達成のための具体的な方法

■後期5年間で重点的に取り組むもの（重点事業）

1. 広尾高校の魅力高める取組を推進する。（主体：町、教委、広尾高校存続対策協議会、広尾高校）

地域ぐるみで広尾高校を応援する「広高サポーター制度」の構築やコーディネーター配置による地域学の充実と全国募集の開始、特色ある授業の導入など広尾高校の魅力高めることで、入学者の増加を図る。

2. 広尾地域学の充実を図る。（主体：町、教委、広尾高校）

地元の産業や歴史、文化などを地元住民と交流して実際に体験しながら学ぶ「広尾地域学」のさらなる充実を図り、広尾高校の魅力向上と併せ、地域を支える人材を育成する。

3. 高校生対象の無料の公設民営塾を開設する。（主体：町）

個々の学習習慣や基礎学力の定着を図り、学力格差の拡大を防ぐとともに、広尾高校における生徒の希望進路実現を推進する。

<関連する重点プロジェクト>

⑨ 広尾高校魅力向上プロジェクト

■継続して取り組むもの（継続的事業）

1. 連携型中高一貫教育を推進する。（主体：中高一貫教育連絡協議会）

2. 広尾高等学校への支援（広尾高校サポートプラン）を継続する。（主体：教委、中高一貫教育連絡協議会、広尾高校存続対策協議会）

3. 広尾高等学校の存続活動を展開する。（主体：広尾高校存続対策協議会）

イメージ写真	基本目標	3	豊かな心を育む文化を高めるまちづくり
	政策	2	生涯学習・社会教育の推進
	施策	①	生涯学習と社会教育の推進

5年後のめざす姿	いつでも自発的な学びができるまち
----------	------------------

成果目標

活動指標（アウトプット） ※何をどれくらいやったかを把握するためのものさし	単位	現 状 （平成30年度）	中間目標 （5年後：R7年度）	最終目標 （10年後：R12年度）
プロモーションビデオを製作した生涯学習サークルの数【累計】	団体	—	5	10
総合型地域スポーツクラブの設立数【累計】	組織	—	設立準備	1
趣味・教養学習講座「マイプラン」の開催回数【単年】	回	6	10	10
大人の文化講座開催回数【単年】	回	2	5	5
出前講座開催回数【単年】	回	416	450	450
成果指標（アウトカム） ※どのような効果があったかを把握するためのものさし	単位	現 状 （平成30年度）	中間目標 （5年後：R7年度）	最終目標 （10年後：R12年度）
趣味・教養学習講座「マイプラン」への延べ参加者数【単年】	人	49	80	80
大人の文化講座への延べ参加者数【単年】	人	19	50	50
出前講座への延べ参加者数【単年】	人	6,783	7,000	7,000
図書の合計貸し出し冊数（本館図書、移動図書、移動文庫、団体貸出）【単年】	冊	30,951	31,000	31,000
全国体力・運動能力、運動習慣等調査（5年生）における全国平均比（8種目の平均）【単年】	%	（R1）96.3	100	100

目標達成のための具体的な方法

■後期5年間で重点的に取り組むもの（重点事業）

1. すべての町民に幅広い学習機会を提供する。（主体：教委）

すべての町民が自らの可能性を広げ、人生を豊かにするための学びの機会を得られるよう、町民ニーズを考慮しながら幅広い学習機会を提供する。

2. 部活動の地域展開を推進する。（主体：教委、地域）

地域のスポーツ団体・文化団体等と連携し、地域資源等を活用しながら段階的に部活動の地域展開を進める。

3. 総合型地域スポーツクラブを設立する。（主体：教委）

地域の指導者を集め、幼少期から色々な種目のスポーツに触れたり、子ども用の基礎トレ

ーニング方法を学んだりするための「総合型地域スポーツクラブ」を設立する。

<関連する重点プロジェクト>

⑤ 自分大好きプロジェクト

■継続して取り組むもの（継続的事業）

1. サークル紹介用プロモーションビデオを製作する。(主体:教委)
2. 広尾っ子応援団本部事業を推進し、学校教育と社会教育の連携強化を図る。(主体:教委)
3. 体育施設の適切な維持管理を図る。(主体:教委)
4. 児童福祉会館(図書館)の機能の充実を図る。(主体:教委)
5. 未利用施設を有効活用して活動拠点を確保する。(主体:教委)

イメージ写真	基本目標	3	豊かな心を育む文化を高めるまちづくり
	政策	2	生涯学習・社会教育の推進
	施策	②	家庭教育の充実

5年後のめざす姿	笑顔の家庭があふれるまち
----------	--------------

成果目標

活動指標（アウトプット） ※何をどれくらいやったかを把握するためのものさし	単位	現 状 （令和元年度）	中間目標 （5年後：R7年度）	最終目標 （10年後：R12年度）
高齢者と子育て世代の交流の場の数【累計】	箇所	—	1	2
家庭教育学級の開催回数【単年】	回	10	12	12
成果指標（アウトカム） ※どのような効果があったかを把握するためのものさし	単位	現 状 （令和元年度）	中間目標 （5年後：R7年度）	最終目標 （10年後：R12年度）
家庭教育学級への延べ参加者数【単年】	人	170	170	170
全国学力・学習状況調査（6年生）における朝ごはんを毎日食べる子どもの割合	%	80	85	90
全国学力・学習状況調査（6年生）における家庭学習に取り組む1日の平均時間	時間	1.27	1.5	1.5

目標達成のための具体的な方法

■後期5年間で重点的に取り組むもの（重点事業）

1. 学校や家庭以外の子どもの居場所を整備する。（主体：教委）

多様な背景を持つ子どもたちの心の支えとなり、健全な成長と孤立防止のため学校や家庭以外の第3の居場所を整備する。

■継続して取り組むもの（継続的事業）

1. 「広尾っ子応援団」を活用し、家庭の教育力向上を図る。（主体：教委、地域学校協働本部）

2. 高齢者と子育て世代の交流の場を創出する。（主体：教委）

3. 家庭教育学級を開催する。（主体：教委）

4. 早寝・早起き・朝ごはん運動（子育てメソッド）を展開する。（主体：教委）

5. 子どもたちのインターネットや電子メディアの利用に関し、道教委や町内小中学校と連携し、望ましい生活習慣の形成に向けて対策に取り組む。（主体：教委）

イメージ写真	基本目標	3	豊かな心を育む文化を高めるまちづくり
	政策	2	生涯学習・社会教育の推進
	施策	③	芸術文化の振興

5年後のめざす姿

誰でも芸術文化に触れられるまち

成果目標

活動指標（アウトプット） ※何をどれくらいやったかを把握するためのものさし	単位	現 状 （令和元年度）	中間目標 （5年後：R7年度）	最終目標 （10年後：R12年度）
プロモーションビデオを製作した文化サークルの数【累計】	団体	—	10	15
新しい文化活動のアンケート調査の実施	—	—	毎年実施	毎年実施
成果指標（アウトカム） ※どのような効果があったかを把握するためのものさし	単位	現 状 （令和元年度）	中間目標 （5年後：R7年度）	最終目標 （10年後：R12年度）
芸術祭入場者数【単年】	人	629	630	630
文化・社会教育サークル数	団体	32	32	32
文化協会加盟団体会員数	人	270	270	270

目標達成のための具体的な方法

■後期5年間で重点的に取り組むもの（重点事業）

1. 多様な芸術鑑賞機会を提供する。（主体：教委）

従来の児童福祉会館に加え、小中学校や高校の体育館等を芸術鑑賞の会場として利用したり、近隣町村と連携するなど、多様な芸術鑑賞の機会を提供する。

2. 新しい文化活動を創造する。（主体：教委）

若い人がやってみたい活動をリサーチし、外部の人材を活用しながら、町内に指導者がいなくても新たに組み立てるような仕掛けをつくとともに、広尾高校においても顧問を置かなくても活動できる新しい文化活動が根付くよう支援する。

■継続して取り組むもの（継続的事業）

1. 文化団体紹介用プロモーションビデオを製作する。（主体：教委）

2. 新しい文化活動をリサーチするため、イベント来場者等にアンケート調査を行う。（主体：教委、文化団体）

3. 親子で文化活動に触れあえる機会を提供する。（主体：教委、文化団体）

4. 新規講座の開設に向けて取り組む。（主体：教委）

5. 児童福祉会館の機能を充実させる。（ステージ照明・音響設備など）（主体：教委）

イメージ写真	基本目標	3	豊かな心を育む文化を高めるまちづくり
	政策	2	生涯学習・社会教育の推進
	施策	④	文化財の保存、継承

5年後のめざす姿	誰でもまちの歴史を語れるまち
----------	----------------

成果目標

活動指標（アウトプット） ※何をどれくらいやったかを把握するためのものさし	単位	現 状 （令和元年度）	中間目標 （5年後：R7年度）	最終目標 （10年後：R12年度）
広尾の歴史「語り部」保存事業の実施回数【単年】	回	—	1	1
出前博物館の開催回数【単年】	回	—	1	1
博物館応援ボランティアの組織数【累計】	組織	—	1	1
広尾の文化財の情報発信回数【単年】	回	—	6	6
成果指標（アウトカム） ※どのような効果があったかを把握するためのものさし	単位	現 状 （令和元年度）	中間目標 （5年後：R7年度）	最終目標 （10年後：R12年度）
海洋博物館・伝習館年間入場者数【単年】	人	(H30)696	1,000	2,000
博物館応援ボランティアの会員数	人	—	3	5

目標達成のための具体的な方法

■後期5年間で重点的に取り組むもの（重点事業）

1. 「続 広尾町史（仮称）」を発行する。（主体：町）

広尾町の産業、福祉、教育及び文化等の歴史を将来にわたって引き継ぐため、町史編さん委員会を設置し、有識者及び出版社の協力を得て、「続 広尾町史（仮称）」を発行する。

2. 海洋博物館の登録博物館認定を推進する。（主体：教委）

地域の文化と歴史を守り伝えるため、学芸員を配置し、登録博物館への認定を目指すとともに、資料の充実と公開に努める。

3. 博物館応援ボランティアを育成する。（主体：教委）

町民有志から博物館や文化財等のガイド役を募り、案内活動を担っていただくなど、町民による博物館づくりに取り組む。

4. 広尾の歴史「語り部」保存事業を行う。（主体：教委）

広尾の歴史を知る方の協力を得て、録画・録音等により、次世代へ語り継ぐ取組を行う。

■継続して取り組むもの（継続的事業）

1. 出前博物館を開催する。（主体：教委）

2. クイズラリーなど博物館イベントの充実を図る。（主体：教委）

3. あらゆる媒体を活用し、広尾の文化財の情報発信を行う。（年6回程度）（主体：教委）